

新日本消防会館の建設について

公益財団法人 日本消防協会

築後約40年を迎え、一部、老朽化、耐震補修の必要性が見えてきた現在の日本消防会館については、周辺の再開発の動きの中で、屋上の消防殉職者慰霊碑の取り扱い等を含めて種々検討の結果、単独改築を進めることとした。

笹川良一元日本消防協会会長のお力で建設され、今日まで日本消防の発展に貢献してきた現会館を改築するに当たっては、その歴史を引き継ぎ、これからの日本消防の発展に寄与することができるものにしなければならない。このことを基本にして、消防関係の方々、市町村長さん方のご意見を伺いながら新しい会館のあり方について検討し、新日本消防会館は、次のようなものとするを考えている。

新会館は、これまでと異なる様相の災害が多発し、少子高齢化、地域社会の変容など社会環境も変化する中で、地域の皆さんとともに地域の安全を確保する一層強固な消防体制づくりに貢献することができる日本消防の総合的な中核拠点としなければならない。

具体的には次のような事項の実現をめざす。

- 幅広い消防防災関係者の集結拠点とする。
- 幅広い消防防災関係者の情報交流、これを活かした連携協力、日本消防総合力の向上をめざす。
- 消防関係者はもとより、一般国民の皆さん、青少年など幅広い方々に対する消防防災の情報発信拠点とし、消防防災に対する皆さんの関心の向上等を進める。
- 消防防災関係者の研修拠点のひとつとする。
- 消防殉職者の慰霊碑の安置などにより、消防関係者の精神的な中枢とする。

また、消防機関の運営主体でもある市町村の一層の発展に寄与するため、次のような事項の実現をめざす。

- 立地条件の良さや新会館の多様な会議室等を活用して、市町村自治関係者の会議等の便宜を図る。
- 市町村職員の消防防災関係研修に協力し、市町村防災体制の一層の強化に寄与することをめざす。

新日本消防会館の建設について

1. 現在の検討状況（令和2年1月基本設計終了時点）

(1) 建物概要（延床面積：約16,400㎡）

（構造）S, SRC, RC造（階数）地上14階、地下2階

1階	日本消防防災情報センター（整備方針検討中）
2階	多様な会議室、ホールエントランス
3階～5階	ニッショーホール（1000席）
6階～12階	事務所（消防関係団体等を配置）
屋上	全国消防殉職者慰霊碑
地下1階	飲食店舗等
地下2階	駐車場、機械諸室

(2) 外観等（別紙1参照）

2階の窓絵については仮案であり、全体的に今後、行政協議等を踏まえた検討を経て決定する。

2. 事業費等

(1) 総事業費 178億円

（設計費等 4.9億円、建設費 145.5億円、仮移転等経費 27.8億円）

(2) 財源内訳

① 日本消防協会内部捻出財源・寄付金・借入金	88.0億円
② 全国市町村振興協会助成金予定額	90.0億円

3. 今後の建設スケジュール

令和2年1月～7月	実施設計
令和2年3月	都市計画決定（告示）
令和2年8月～10月	建設工事入札準備及び入札実施
令和2年11月～令和3年7月	現会館解体工事
令和3年8月～令和6年3月	新会館建設工事

新日本消防会館の整備イメージ

1. 建物外観等

銀座線虎ノ門駅方面より（区道1009、127号線交差点地点）



新駅（日比谷線虎ノ門ヒルズ駅）方面より
（区道127、128号線交差点地点）



虎ノ門病院側（区道1009号線）



ニッショーホール（客席）



全国消防殉職者慰霊碑（屋上）



(別 紙)

日本消防防災情報センターの基本的なイメージ (案)

1 新日本消防会館のシンボルの施設のひとつ

- 日本消防防災の総合的な情報を提供する施設とし、消防防災体制の一層の充実、国民の安全向上に資するものとする。
- 消防防災関係者はもとより、青少年を含む幅広い人々の利用を想定する。
- 従って、基礎的な情報のほか、専門的な高度な情報まで幅広く提供することをめざす。
- 写真パネル等のほか、多様な映像システムを最大限活用する等して、限られたスペース、限られた管理体制のなかで、情報センター機能の充実を図る。
- 展示のリニューアルを適時に行い、状況変化に対応した情報センターの魅力向上に努める。
- 情報センターの存在、機能の PR に努める。またインターネットによるアクセスも可能となるようにする。

2 日本消防防災の重要情報を提供

- 消防体制の発展、課題
 - ・ 江戸時代の火消システム以後、今日までの変遷
 - ・ 消防団設置、常備化進展、地域総合防災力の強化への具体的な発展
 - ・ 消防体制の今後に向けての課題
 - ・ 新会館完成時が消防団 130 年・自治体消防 75 周年であることの周知
- 消防防災に関する研究開発の動向
 - ・ 新たな技術開発等さらなる発展への研究開発

○ 消防防災装備の発展、課題

・ 装備改善の経過

・ 新装備開発の動向、課題

3 火災、自然災害の発生及びこれに対する消防機関等の対応に関する経過

○ 大規模な火災、自然災害の発生と対応に関する経過

○ 近年の災害対応事例

消防機関をはじめとする地方公共団体、医療や福祉など関係機関の対応経過及び今後の課題

4 防災・減災への課題

○ 気象などの災害関連情報、効果的な対応に必要な被害状況等関連情報の総合的なシステムの充実

○ ハード・ソフト両面の総合的な防災基盤の整備

○ 常備消防及び消防団の体制強化

○ 常備消防との緊密な連携のもと、地域にあっては消防団を中核とした地域防災力の充実強化

○ 女性防火クラブ、自主防災組織、少年消防クラブ等の活動支援

○ 医療、福祉等関係機関を含めた総合的な対応体制の充実

5 海外の消防防災事情

○ 海外の消防体制や災害対応状況等の情報提供

(注) 1 現実の整備に当たっては、上記のすべてを即時に進めることは難しいので、優先順位を考慮して、段階的に進める。

2 関係機関及び有識者による検討・実施体制を設ける。